

近代日出発展の立役者

2026 6/23(火) ▶ 10/12(月・祝)

主催 日出町歴史資料館・帆足萬里記念館 日出町教育委員会社会教育課

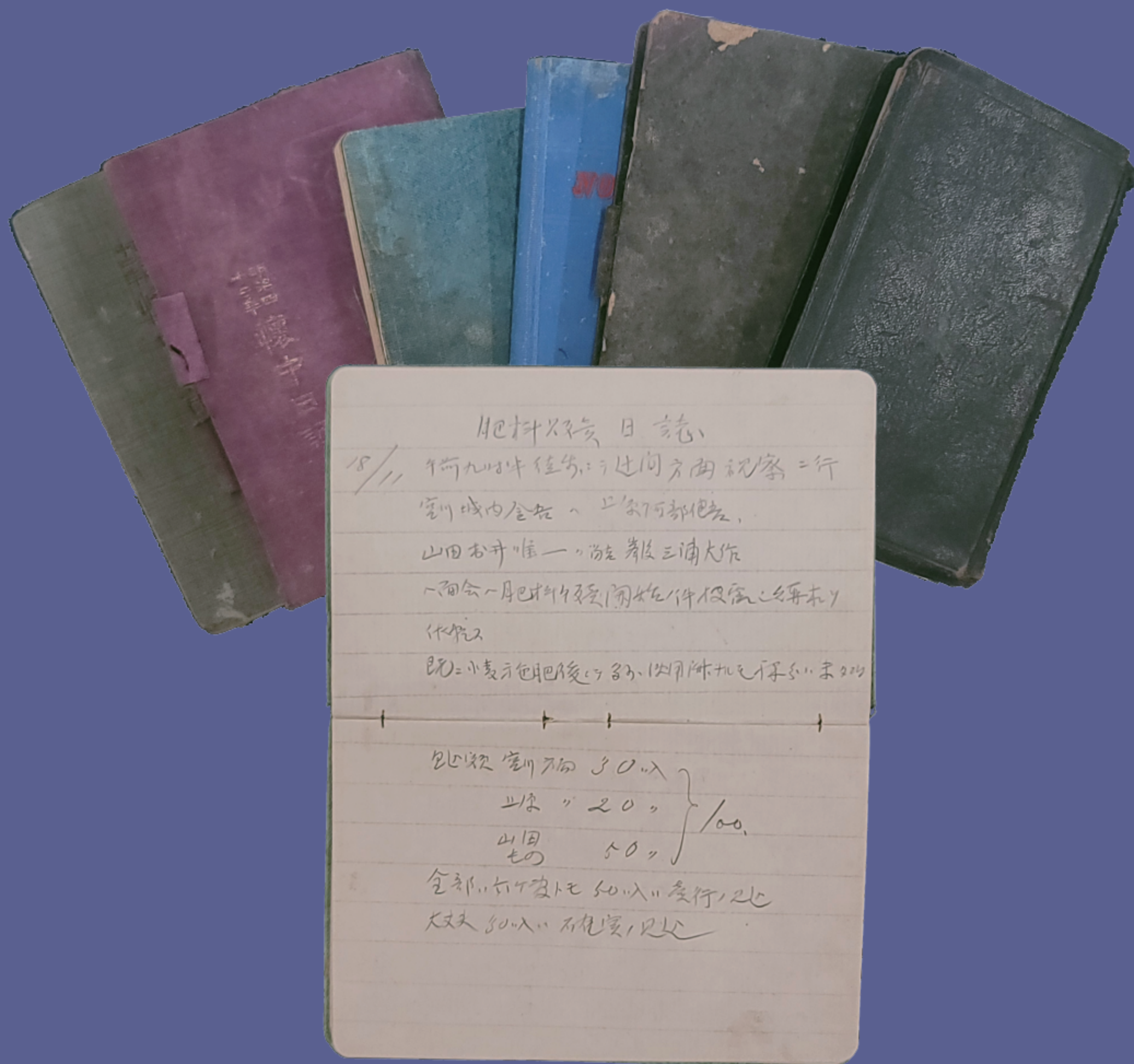
I 手嶋 則作

1876～？。実業家、日出町経済会理事、日出町商工会会長、株式会社朝陽銀行取締役、日出貯蓄銀行取締役、日出町会銀、日出水産会社取締役、大分県醤油同業組合速見郡支部長等を歴任。

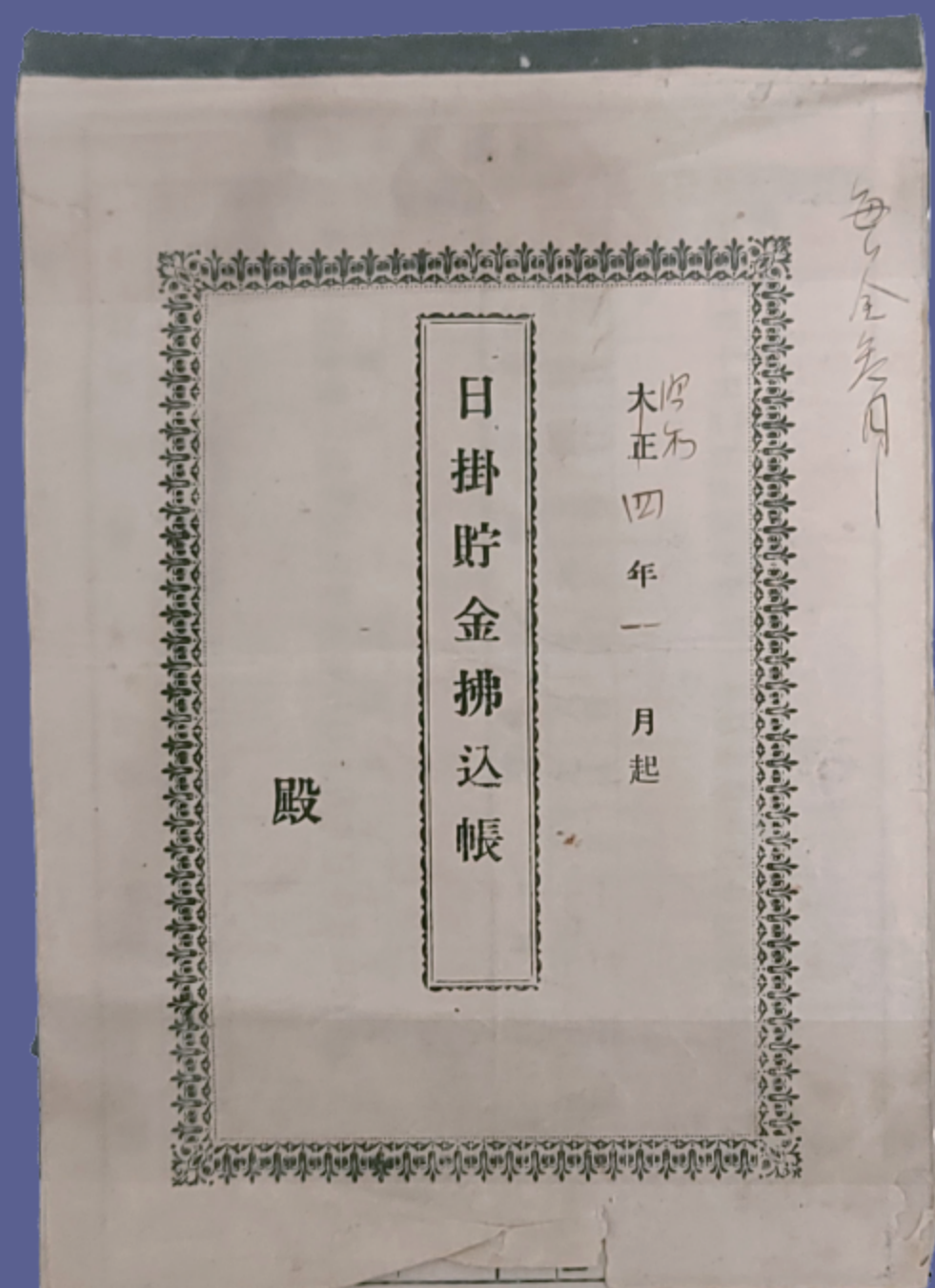
則作は大分県国東郡国東町（現国東市）に田中紀一郎の三男として生まれ、その後、手嶋旭江（1835～1907）の養子として迎えられます。

手嶋家は江戸時代から「魚屋」の屋号を持つ商家で主に醤油醸造販売を行っていました。明治33年（1900）年、

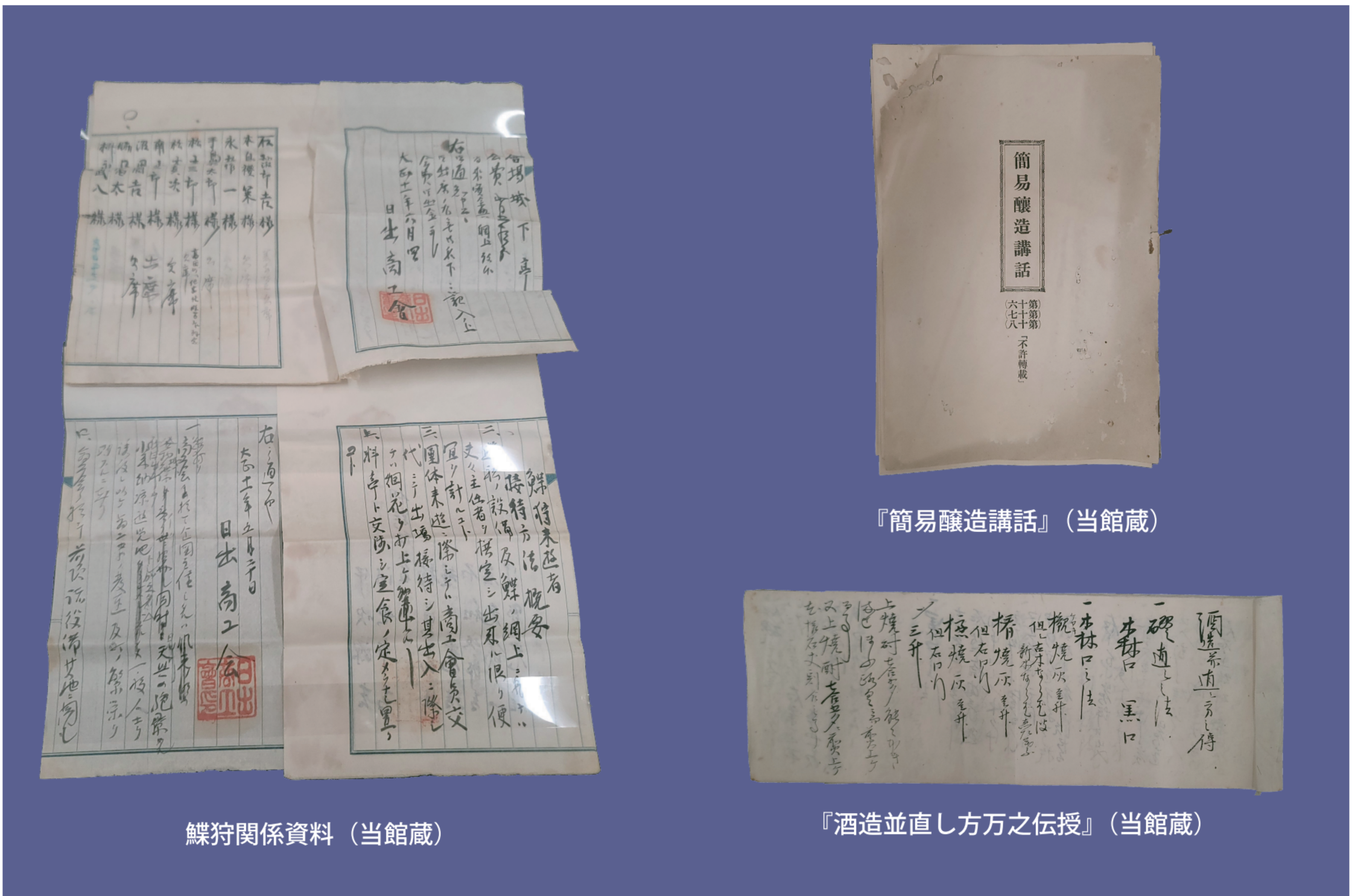
養父旭江より家督を継ぎ家業の他にも事業を展開していきます。家業である醤油醸造から味噌、酒造、そして肥料の製造販売を行った他、明治以降の速見郡内及び日出の中で発展した産業についても会社設立の出資者となることで則作は様々な業種の経営に携わるようになります。帝国興信所が刊行した大正10年の『帝国銀行会社要録』には、日出印刷株式会社、日出製糸株式会社、日出水産株式会社の役員欄則作の名が載っており、手広く異なる業種に携わっていたことがうかがえます。当時則作はこの他にも朝陽銀行、日出貯蓄銀行、日出信用組合といった銀行業、保険会社の代理店も行っており、実業家として日出の産業の発展に寄与しました。



懐中手帳（当館蔵）



日出町貯金払込帳（当館蔵）



鯨狩関係資料 (当館蔵)

『簡易醸造講話』(当館蔵)

『酒造並直し方万之伝授』(当館蔵)

II 宇佐美 健吉

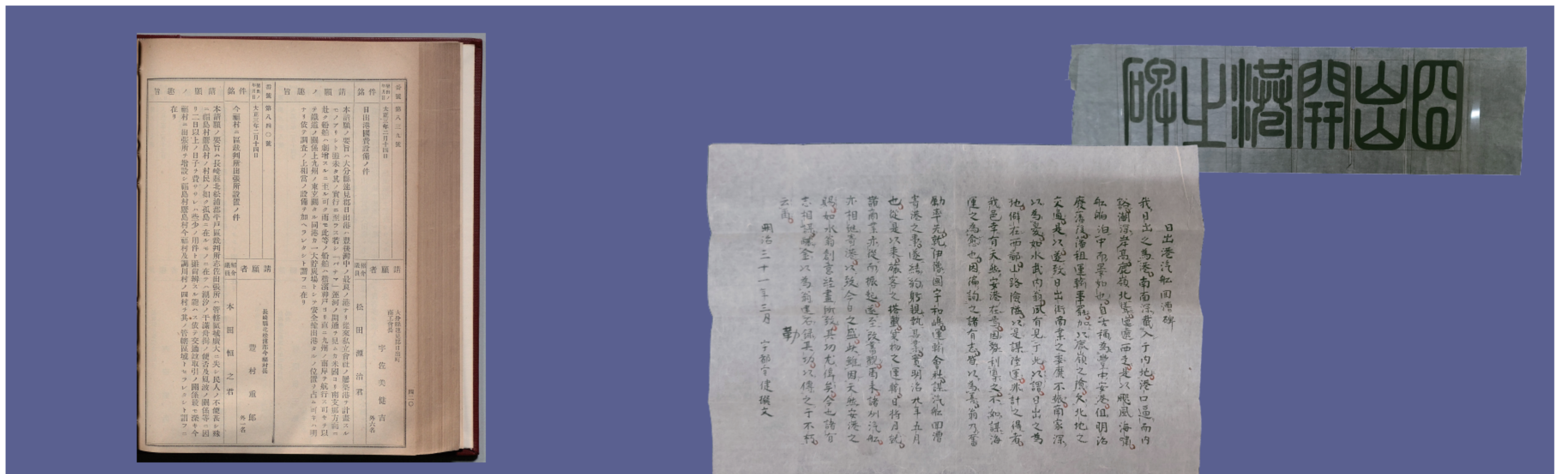
1879～1936。実業家、政治家、日出町経済会理事、日出町商工会会長、株式会社朝陽銀行取締役、日出貯蓄銀行取締役、日出町会銀、日出水産会社取締役、大分県醤油同業組合速見郡支部長等を歴任。

健吉は速見郡日出町本町に宇佐美庄司の長男として生まれました。

宇佐美家は江戸時代から「南郡屋」の屋号を持つ庄屋で、祖父春三郎は、明治維新後の日出村副戸長を務めるなど

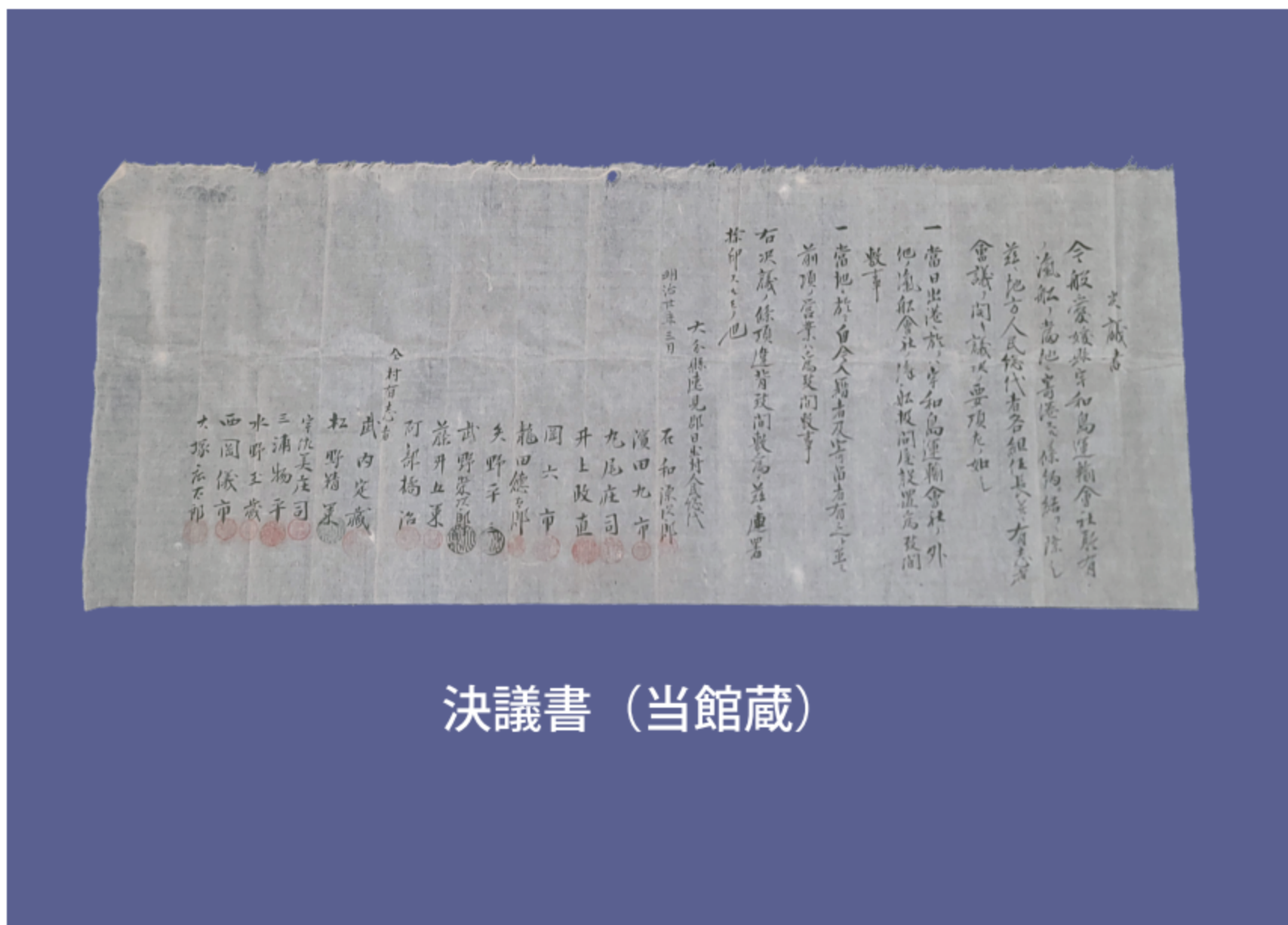
した人物でした。明治 42 (1909) 年、父庄司の逝去に伴い、家督を継ぎます。翌年には朝陽銀行取締役を選任されると、帆足記念文庫評議員、日出商工会会長、町会議員を経て大正 12 年日出町長に当選します。

大正 3 (1914) 年、政府が軍需産業として重化学工業の育成をはかりはじめ、健吉も新しい産業として大正 4 (1915) 年日本窒素肥料株式会社の工場を建設します。建設地は南郡屋新田として所有していた川崎海岸でカーバイトを製造していました。大正 10 年に日本窒素肥料株式会社は九州水力電気株式会社を買収され、以降も水力発電を用いたカーバイト製造が続けられています。



帝国議會衆議院請願文書表 第 31 回帝国議會 (国立国会図書館蔵)

日出開港之碑 (当館蔵)



決議書（当館蔵）

また文化面でも健吉は高浜虚子の高弟であり、俳号を藤泉と号し明治・大正時代の大分の俳壇を開拓した新聞の選者として県内の俳諧を開拓しました。このような縁から大正 9（1920）年、高浜虚子が大分に招かれた際に日出に滞在することになったものとみられます。

Ⅲ 成清 信愛

1886～1946。実業家、政治家、大分交通社長、朝陽銀行頭取、日出町長、衆議院、貴族院議員等を歴任。

信愛は福岡県山門郡（現みやま市）に博愛の長男として生まれました。地元中学を卒業後、早稲田大学へ進学。博愛の興した馬上金山事業の急成長に伴い、事業を継承します。時勢柄鉱山業は好景気を迎えていたこともあり、馬上金山も最盛期を迎えました。しかし大正 12（1923）年に金山を日本鉱業へ売却することで鉱山業を退いています。信愛は金山で得た資金を銀行等の金融業、交通事業に投資しています。大正 8（1919）年、信愛を取締役頭取とした株式会社成清貯金銀行が創業されますが大正

15年に朝陽銀行の経営も行うこととなり、次第に朝陽銀行へと集約されました。

この他にも、大分セメント、九州電気工業、宇佐参宮鉄道、宇佐参宮自動車、国東鉄道、別杵自動車、別府合同タクシー等で役員、取締役などを務めており、昭和 20年の大分交通株式会社設立の際には長年にわたる交通産業を成果から初代社長に就任しています。

教育法面では、昭和 2 年に日出家政女学校を設立。大分高等商業学校（現大分大学）等の校舎、学校基金の寄付をしています。

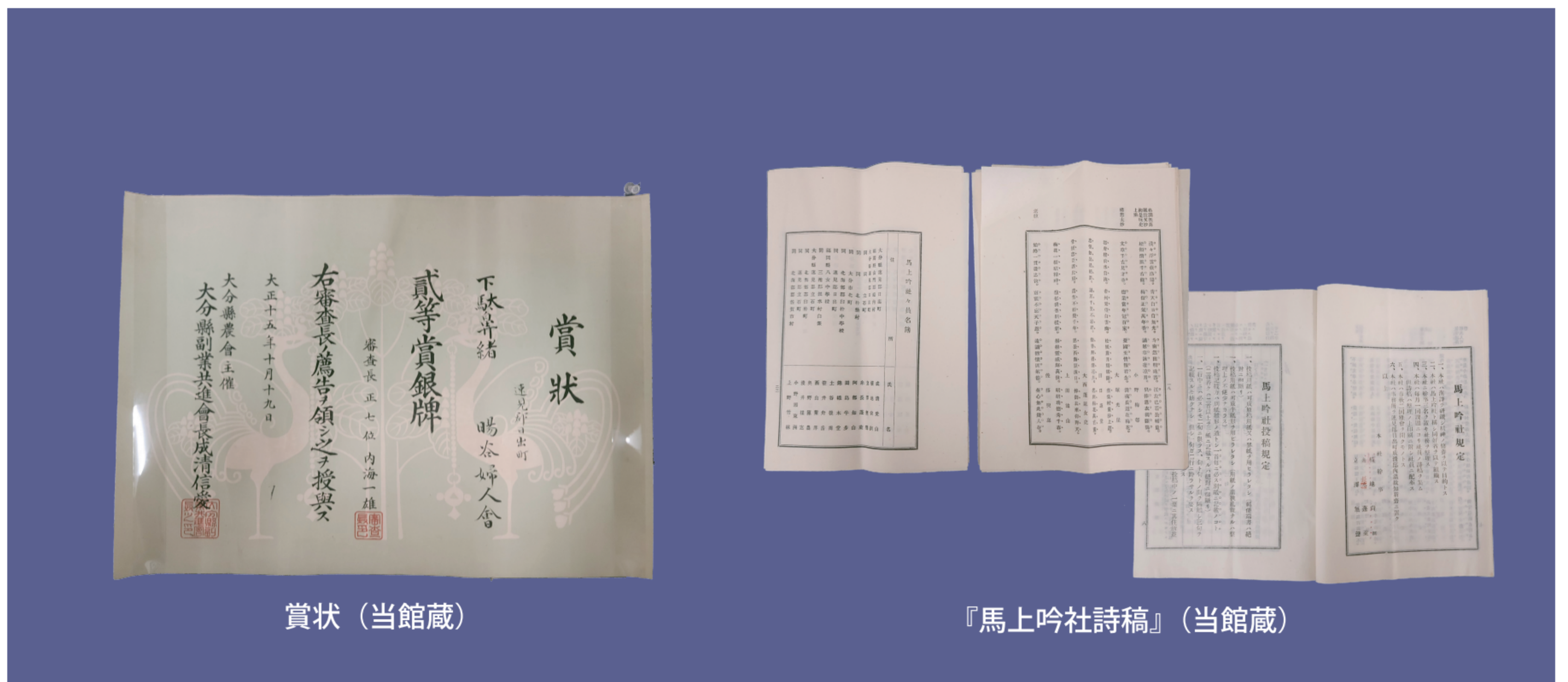
Ⅳ 武内 勢平



1876～1944。実業家、政治家、日出実業青年会、日出商工会理事、日出貯金銀行取締役、日出製糸株式会社取締役、日出印刷株式会社取締役、町、郡、県議会議員、日出町長等を歴任。

勢平は日出町本町に定蔵の次男として生まれました。武内家は江戸時代初期から「播磨屋」という屋号で醤油・酒の醸造を生業としています。父定蔵の代より、回漕業を興し日出港を漁村から輸送港へと発展させた人物でした。定蔵の代に始まった回漕業を引き継いだ勢平は、宇和島運輸だけでなく、各地の回漕問屋とも取引を行い、航路を更に拡大させ日出港を物流の要所へと発展させました。明治 29 年、朝陽銀行の傍系銀行として日出貯蓄銀行が設立され、勢平は取締役として就任します。その後も製糸株式会社、日出印刷の取締役に就任し、日出の産業の中核を担います。

昭和 4 年、日出町長に就任すると国道をはじめ林道、海岸道路の整備の他、蜜柑栽培を奨励し、農産業の発展



賞状（当館蔵）

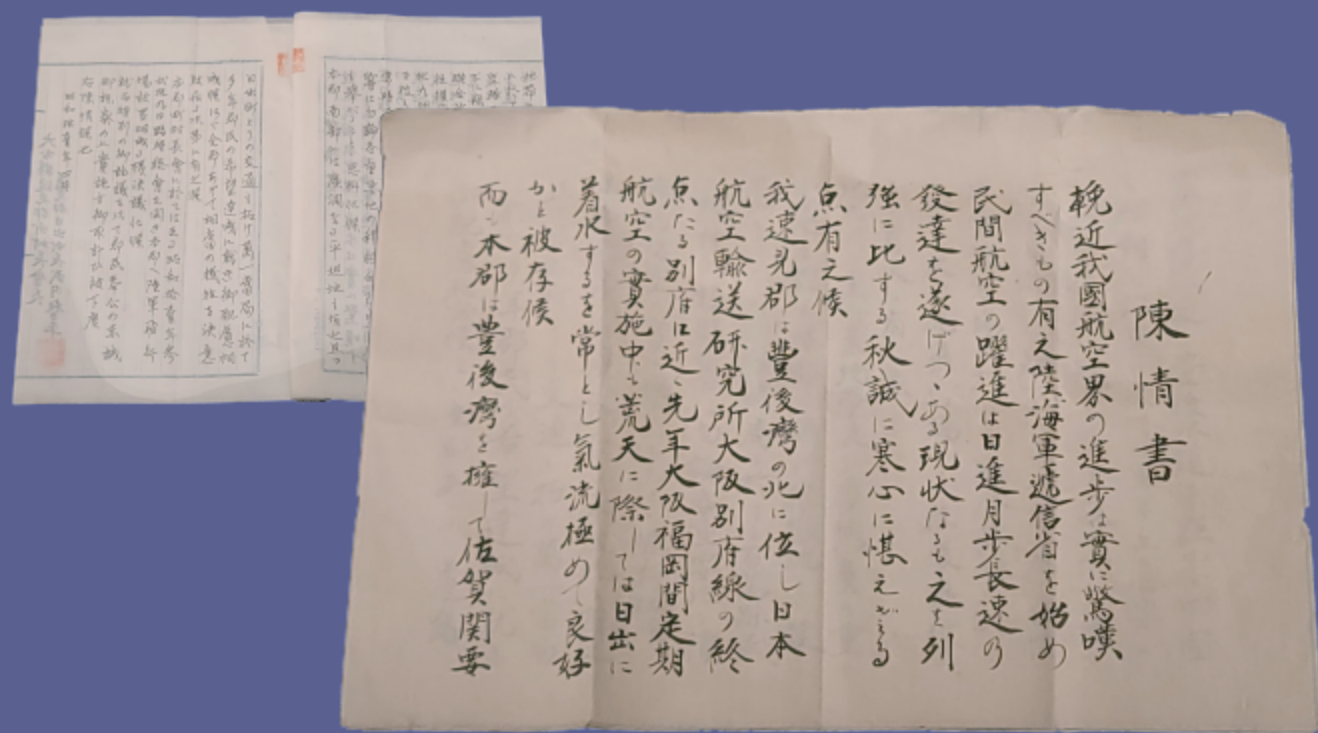
『馬上吟社詩稿』（当館蔵）

に尽力しました。

勢平は俳句の同好会「暘谷吟社」の主宰を務める程俳句が好きだったようで、回漕業で各地を訪れた際に各地の俳人たちと交流を重ねたようです。長男の初節句に併せて句会が開かれた際の短冊野中には、四国・京都・東京等の俳人からの祝いの句が遺されています。



城下海岸開発計画資料（当館蔵）



陳情書（当館蔵）

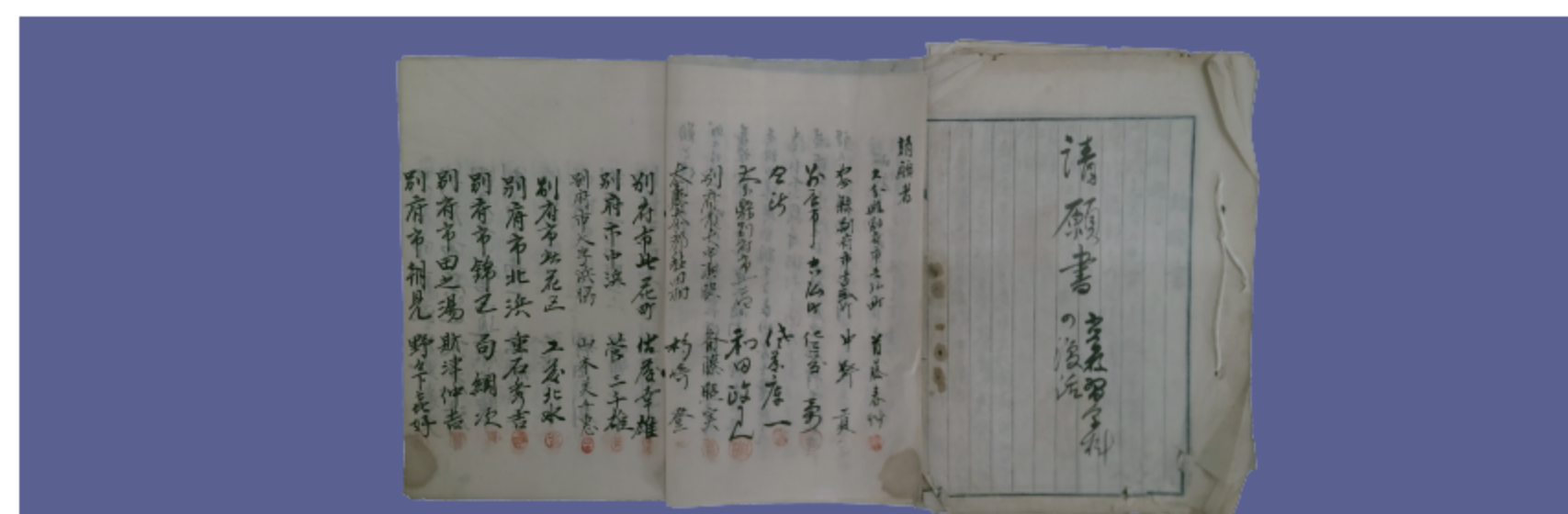
歴任。

定は大分県速見郡藤原村（現日出町）に福一の長男として生まれました。昭和3（1928）年に大分県師範学校（後に大分師範学校から大分大学となる）を卒業し、杵築および別府の小学校に勤務しますが、昭和5年からは大阪府に出向し小学校訓導として10年余を過ごします。終戦直前に大分県に帰り大分国民学校の訓導となりました。

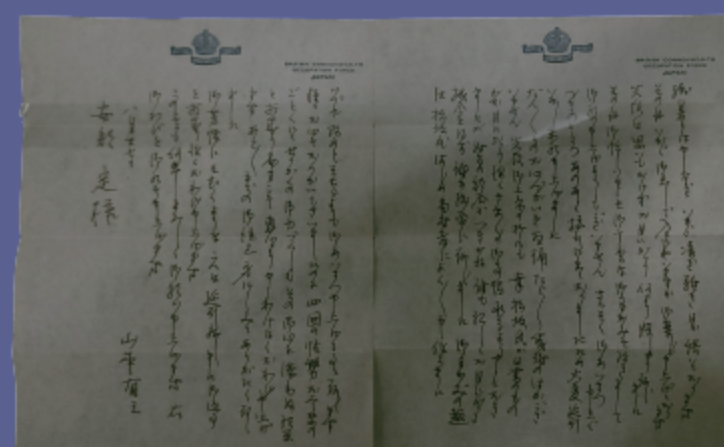
戦後は、県教員組合の結成に奔走し、初代委員長に就任しました。そのことから、昭和22(1947)年に行われた初の参議院議員選挙において当時100名の定数であった全国区に推挙され出馬し当選して、参議院議員となりました。

参議院議員としては教育者出身の議員として、主に小学校における習字科の復活に取り組みました。当時、習字教育は民主化に反する教育としてGHQから厳しく制約され、充分に取り組むことができない状況だったのです。

その後、3年の任期により再度選挙に挑みますが落選し、小学校教師に戻り最後は大分市内の小学校の校長を務め退職しました。定年後は日出町に戻り、「大分の自然を守る会」の会長に就任し活動をつづけました。



小学校習字科の復活についての請願書（当館寄託）



山本有三書簡（当館寄託）



前参議院議員記章（当館寄託）

V 安部 定



1908～1994。教育者、大分県教職員組合の前身である大分県教員組合(昭和21年(1946)設立)の初代委員長、日本国憲法制定後初の参議院議員、大分市小学校校長を

日出町歴史資料館・日出町帆足万里記念館

【開館時間】9:00～17:00 ※入館は16:30まで

【休館日】月曜日（祝日の場合はその翌日）

年末年始（12月29日～1月3日）

【住所】大分県速見郡日出町2602番地1

【問合先】TEL0977-72-6100 FAX0977-72-6103

■所管課 日出町教育委員会

社会教育課（文化財係）

〒879-1506 大分県速見郡日出町3891番地2

TEL0977-73-3222 FAX0977-72-8680

日出町歴史資料館・日出町帆足万里記念館ホームページ（アーカイブ）にて、過去に開催した特集展を公開しています。

